

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.18〉

<吉部③ 小学校歌>

吉部小（江田良市校長）は1875年、吉部八幡宮の西側に開校した。現在は職員室カフェとして活用されている旧校舎を経て、2003年の吉部中、万倉中、船木中の統合による楠中の開校に伴い、翌04年から旧吉部中学校舎を使用している。25年には150周年を迎える。

校歌

一 あおげば 高き荒滝の
姿をうつす 厚東川
うるわしき山 清き水
わが吉部村は ここにあり

二 この村里の ただ中に
きぜんとたてる わが校は
生氣あふるる 健児らが
知徳をみがく 修練場

三 凍るがごとき 冬の日も
焼くるがごとき 夏の日も
学びのわざを すすめんと
きそいあつまる 吉部の校
さかえあれ 吉部小学校



吉部小学校

校歌は自然や文化、地域とのつながりを連想させる。作詞者は不明で、作曲者は中島秀信という名前だけが分かっている。学校に残る資料には歌詞が4番まであったと記載されているが、いつ、なぜ無くなったのか定かではない。1番は市内最高峰の荒

自然や文化とのつながり連想

愛着湧く歌詞、かつては4番が存在

滝山から始まり、その姿を映し出す厚東川の流れを表現。2番は自然の中で、元気な子どもたちが勉強にいそしみ心を磨く場であるところ、3番は同校の発展を願うフレーズでくくっている。

校歌は、入学式や卒業式、地域のイベントで歌っており、児童たちは歌詞について友達と話し合ったり、意味を考え、理解を深めている。江田校長は「歌詞の内容を知ること、地元で愛着が湧く。自分たちが住んでいるまちをもっと知ってほしい」と話す。

玄関口の上部に校歌額を掲げ、学校敷地内には2番の歌詞が刻まれた石碑が建っている。碑は旧吉部小時代からあり、現在の場所への移転に伴い、移動させた。児童数は1958年の485人をピークに減少を続け、今年度は22人。教育目標は「地域を愛し、人を大切にする子どもの育成」で、チャレンジ目標には「優しい言葉、優しい行動、誰もが大切」を掲げる。江田校長は「古里を大事に思えるよう成長してほしい」と願う。